

〔目的〕日本の平野部町村における、10歳前後の孫と70歳前後の祖父母との間にはどのような親和関係が存在しているかを具体的に見るために、同居・別居の条件別に、孫と祖父母の両側から調査し検討する。

〔方法〕神奈川県足柄上郡大井町（小田原市のすぐ北）に所在する2小学校の女～6年生児童515名に対して配布自記式調査を、同校の進学地域に居住する65歳以上男女老人計365名に対して自宅訪問面接調査を、それぞれ1985年7月に実施、機械集計で分析した。

〔結果〕孫の立場からの分析概要は、次の通りである。1. 祖父または祖母と同居している孫は35%、別居の孫は65%である。2. 以下、同居者についていうと、朝食を共にする孫は72%、夕食を共にする孫は80%、70%の孫がプレゼントをし、80%がプレゼントを貰う。3. 祖父より祖母の方が、一緒に外出する機会が多く、相談相手としてもより信頼されている。4. 祖父母と「気が合う」とする孫は男子25%、女子85%、「かわいがられている」とする孫は男子85%、女子95%で、親和関係は良好といえる。特に、祖母-女孫関係が最も親密である。5. 将来「自分が孫と同居したい」と考えている孫は、男女とも80%いる。6. 別居している孫は、母方の祖父母と合う方が多い。しかし、機会に殆ど夏休み、冬休みに限られ、手紙10%、電話30%、とコミュニケーションが少ない。そのため、「気が合う」「かわいがられている」との思いは、同居者とほぼ同じくらいあるが、「相談相手」と考える孫は非常に少ない。